



# 輝け!! 館総ブランド

- 実学はスペシャリストへの近道 -



あじして房州人に減災を知ってもらおうべえか? ~館山減災大作戦!~

**学ぶ**

## SPH・防災学習 in 福島



SPH事業で研究している防災学習の一助として、東京電力廃炉資料館、浪江町でのフィールド学習やワークショップ、福島県立小高産業技術高等学校での交流学習を行いました。生徒たちにとって、実際に東日本大震災の被災地を見学し、被災した方々の話を聞く有意義な時間となりました。

**活かす**

## 校内カフェ & 支援活動



SPH事業の一環として実施した、福島県での防災学習で学んだことを地域に還元するため、生徒たちが考えた防災講座やイベント、スタンプラリーなどを、「校内カフェ」・「まちカフェ」と称して開催。台風災害の時は、被害の大きかった地域やお年寄りの多い地域への支援活動を行わせていただきました。

### クリエイティブな 生き方を目指す 家政科



地域と  
共にあゆむ

「まちカフェ」では、来場者へのポスターセッションを実施。BEACH マーケットでは、パウンドケーキ販売、防災種紹介、歓喜対策としてジビエ BBQ の提供を行いました。

### ITを活用して 可能性を広げる 商業科



地域と  
つながる

地域の小学生を対象としたプログラミング講座を開催しました。生徒がインストラクターとして大いに活躍し、小学生にプログラミングの楽しさを伝えることが出来ました。

### モノづくりで 人づくり 工業科



環境を知る

電気コースの変圧器実習と化学コースの中和滴定実習風景です。多くの生徒が電気工事士の資格を取得します。毎年、日本大学の「風力発電コンペ」にも出場しています。

### 海を知り 海から学ぶ 海洋科



海から学ぶ

海洋生産と海洋工学コースでは、太平洋の大海原での実習、栽培環境コースでは、魚の養殖や潜水実習、食品コースでは、水産物を利用した商品開発や製造実習を行っています。



## 千葉県立館山総合高等学校

<http://cms2.chiba-c.ed.jp/tateyamasogo/>  
E-mail:tateyamasogo@chiba-c.ed.jp

<本校舎>

〒294-8505 千葉県館山市北条 106  
TEL.0470-22-2242 FAX.0470-23-1046

<水産校舎>

〒294-0037 千葉県館山市長須賀 155  
TEL.0470-22-0180 FAX.0470-23-8944



## 誰もが暮らしやすい街に

### ～専門高校生としての私たちの一歩～

千葉県立館山総合高等学校

私たちの学校は、平成20年に、共に産業教育に長い歴史を有する館山高校と安房水産高校が統合して誕生した複合型総合高校です。全日制に工業、商業、海洋、家政の4学科を有し、単位制普通科の定時制と、外航船の船長・機関長を育てる専攻科を併設し、更には通信制である県立千葉大宮高校のスクーリング協力校としての指定もいただいております。「全国でも有数の多様な学び」が展開されている県立高校です。

学校が位置する館山市は房総半島の南端部にあり、霜の降りない温暖な気候に誘われ四季それぞれに多くの観光客が訪れることから、全日制では学科を越えて「観光の学び」を導入し、故郷への理解と専門高校生としての地域貢献を考えてきました。

その故郷では今、人口の減少と高齢化が進んでいます。また市内には大学や短大等がないため、私たち高校生が若者の中心となります。私たちを育ててくれた故郷が、今後も、子どもからお年寄りまで、すべての人が安全で安心して暮らしていける街であり続けるために、高校生として何ができるか、何をすべきかを考え、実践してきました。

今回「魅力ある県立学校づくり大賞」への応募に際しては、私たちの取組の中から、地域と共に進める防災・減災活動の実践に焦点をあてまとめさせていただきました。

具体的には、家政科が文部科学省から指定を受けているSPH（スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール）事業や館山市「市民協働まちづくり支援事業」等を活用して次のような取組を進めてきました。

- ◎「全国防災ジュニアリーダー育成合宿」への参加（生徒、教員）
- ◎「福島学宿（帰還困難区域を含めた被災地にての宿泊学習）」（生徒、保護者、教員）
- ◎「かまどベンチ」の製作（工業科）、生存対策講習会の開催（海洋科）
- ◎SPH「校内カフェ」における防災・減災ポスターセッション（避難所再現コーナー等）

私たちは、これらの取組を進める中で、災害の怖さを知り、被災の悲しみにも触れましたが、それと同時に、命の重みや生きる意味について改めて考えることにもなりました。また、共に参加してくれた保護者が、涙を流しながら語り合ってくれたことは、この先忘れることはないと思います。

こうした取組を進める中で、故郷が被災しました。

学んできたことをいかに実践するか、あまりの状況に足がすくむ場面もありましたが、日ごろ御指導いただいている館山市社会安全課の方々の支援も得て、手製の支援物資等を携え災害の大きかった地域に入り、お年寄りの方々などから「声」を聴き、市につなげる活動をしました。

私たちの小さな一歩は、地域で愛読されている房日新聞や館山市広報誌等で数多く紹介していただいたこともあり、たくさんの方々を知っていただくことになりました。

11月に全学科が協力して館山駅前で開催した、「まちカフェ」には、子どもからお年寄りまで多数の方々が登場してくださり、「館総の防災・減災活動」が広がり始めたことを感じさせていただきました。

私たちは、いずれも「その道のプロ」となることを目指し学習しています。そして、それは「誰もが安心して暮らしていける街」の実現につながることを信じています。今後も、小さな一歩を大切に歩み続けていきたいと思っております。